

社会環境における音楽の果たす役割

保育系大学生のアンケートによる

The Roles of Music in Social Environment

加藤いつみ・劉 郷英

KATO Itsumi & LIU Xiangying

Abstract: This study investigates the roles of music in daily lives among college students majoring in nursery. The research includes their tastes, activities, Environment, education and influence from industries or media, which are related to music. The results show that they are willingly involved in music and it enlivenstheir lives.

Keyword: music tastes, music environment, music education, media affect

I. はじめに

今日は、友達のいじめによって登校拒否や自殺したりする子どもが増えている。また、自分の子どもにタバコの火をこすりつけ虐待をする父親や、川へわが子を突き落とし平気な顔をしている母親など、想像を絶する行為が日常茶飯事のこのように起っている。いったい何が、人々をそのような行動に駆り立てるのであろうか。人を押しのけてでも勝ち抜いてゆかなければならない競争社会が人の心をすさんだものにさせるのであろうか、またテレビやマンガに頻繁に現れる殺人シーンが、人を殺すことに対する感覚の麻痺となっているのであろうか。

私たちは、疲労した時や心配事がある時など、些細なことであっても判断能力を欠いて怒ってしまうことがある。そんな時にあって、心地よい風の音や、静かな田園風景、小鳥のさえずりなど、自分の周囲にある大きな自然に‘はっ’と我を取り戻し、その懐にどっぷりつかると心地よさを感じることもある。気がつく、鼻歌を歌っていたり、子どものころ好きだった歌や、最近耳にした歌を自然に口ずさんでいる。人々はどのような時に歌を歌い、そして歌うことは人の心にどんな影響をもたらす、人の心にどのような変化を与えるものであろうか。

そもそも、日本の学校教育に西洋の音楽が導入されたのは、明治の10年代の半ばであった。明治13年に文部省に設置された音楽取調掛は、子どもたちの情操を高める目的で明治14年(1881)最初の教科書『小学唱歌集』を出した。しかしその内容は、

外国で歌われているメロディーに日本語の歌詞をつけた曲、西洋の音階とヨナ抜き音階 $\times 4$ (7 \times)と7(シ)の音を抜いた \times を折衷させた曲、そして7・5調の美しい歌詞を付けた曲であり、それらは、子どもたちが普段歌っていた歌とはおよそかけ離れたものであった。やがて近代化の波に乗り富国強兵が叫ばれてくると、音楽は歌詞やリズムの面において英雄をたたえ、軽快な曲が作られ、そしてそれらは、国民の戦意を高め、国家統一の手段として用いられるようになった。終戦を迎え、“民主化”“自由化”のもとに政治・経済・社会に変化が見られる中、昭和22年(1947)小学校学習指導要領の中に音楽が提示された。その中で音楽の学習は、教室や時間内のみで行われるのではなく、しかも技術の習得に主眼を置くのではなく、児童の日常生活に豊かさや明るさを与え、広い意味の人間教育の一面を分担すべきことが明らかにされた。

日本の音楽教育の特徴は、鑑賞・歌唱そして器楽の分野に共通教材があり、全国ほとんどの学校で同じような指導内容をもっていることである。従って、今回の調査を試みた学生は、基本的な学校教育においては、共通基盤を備えている、ということが言える。この大学生の大半は、18~23才であり、彼らは平成4~9年に小学校に入学し平成10~15年に卒業している。平成になってから学習指導要領は三回改訂がされているが、現在20才以上の学生は、平成4年4月に施行された内容に沿って教育を受け、また、20才以下の学生は、平成14年4月のものによって

いる。平成 14 年に施行された指導要領は、平成 4 年のものより、音楽の時間が 6 年間を通して 60 時間も減らされ、その上、器楽教育に対しては、<音色に気をつけて、旋律楽器及び打楽器を演奏すること>となっている。このことは、元来は旋律楽器の主要はリコーダーであったが、今後リコーダーでなくとも、旋律が奏することの出来る楽器であれば種類を問わない、ということである。この改訂は、旋律楽器として邦楽器の導入も視野にいられたものである。

今回は、上記のような課程で音楽教育を受けてきた保育系の短大・大学生をターゲットにして、彼らの音楽観とその実態についてのアンケート調査を試みた。彼らは、学校教育のみならず、家庭において家族から、友人から、音楽産業やTVなどのメディアなどから、さまざまな環境・機会を通して音楽に親しみ、自身の中に取り入れてきている。今回は、彼らが受けた教育、育った家庭での音楽環境、友人から得た知識など学校外の音楽環境、音楽産業やメディアからの音楽環境との関わりなど、データから

得られた結果を基礎資料として、彼らの音楽と生活のかかわり、音楽が彼らの生活に果たしている役割について明らかにしようとするものである。

II. 調査方法

1. 調査対象

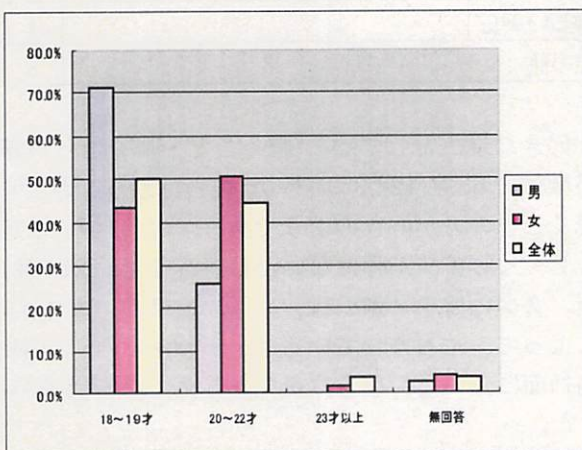
調査は、名古屋近郊の保育科をもつ 5 校の学生を対象に行った。その結果、男女 18~23 才までの学生、312 名の回答を得ることが出来た。調査の方法は、A 大学は加藤、E 大学は劉が直接に伺い、授業の中でアンケート用紙を配布し、調査を実施した。B 大学、C 大学は、その大学に非常勤講師として勤務している二人の先生に調査を依頼した。D 短大は、加藤が授業中に調査用紙を配布し、その場で回答してもらった。表 1 は調査対象、表 2 は男女の年齢構成を示したものである。短大、大学の学生は、一般的には 18~23 才くらいである。学習指導要領の改訂の時期を区切りにして、調査対象の年齢を 18~19 才、20~22 才、23 才以上の三つに分けた。表 2 は、男女別にした彼らの年齢構成である。

表 1. 調査対象

調査校	男 (人数)	女 (人数)	計	調査日
A 校	20	26	46	11/11
B 校	22	21	43	11/12
C 校	23	28	51	11/18
D 校	12	66	78	11/18
E 校	0	94	94	11/27
合計	77	235	312	
	24.7%	75.3%	100.0%	

性別	人数	%
男	77	24.7
女	235	75.3
計	312	100.0

表 2. 男女の性別と年齢構成



III. 調査内容と調査項目

調査の内容と項目は次のようである。尚、調査項目は、巻末に「別表 1. 音楽に関する意識調査」として添付した。

1. 音楽の趣味

- ① 音楽の好き嫌い——表 3、表 4、表 5、
- ② 歌うこと、聴くこと、楽器を弾くこと、のうち何が好きか——表 6、表 7、表 8、表 9

2. 家庭の音楽環境

- ① 家では家族がよく歌うか——表 10、表 11
- ② どんな歌を歌うのか——表 12
- ③ 子どもの頃歌った好きな歌——表 13

3. 音楽活動

- ① 小・中・高時代の部活動——表 14、表 15
- ② 学校外の音楽学習——表 16、表 17

③現在している活動——表 18、表 19

4. 音楽産業・メディアとの関わり

①カラオケに行く頻度——表 20A、表 20B

② TV、CD、携帯・iPod の使用頻度——表 21A、表 21B

5. 音楽と心情

①音楽と接したいと思った時——表 22

②その時どんな種類の音楽を好むか——表 23

以下、調査項目に沿って、集計結果をまとめた。

1. 音楽の趣味

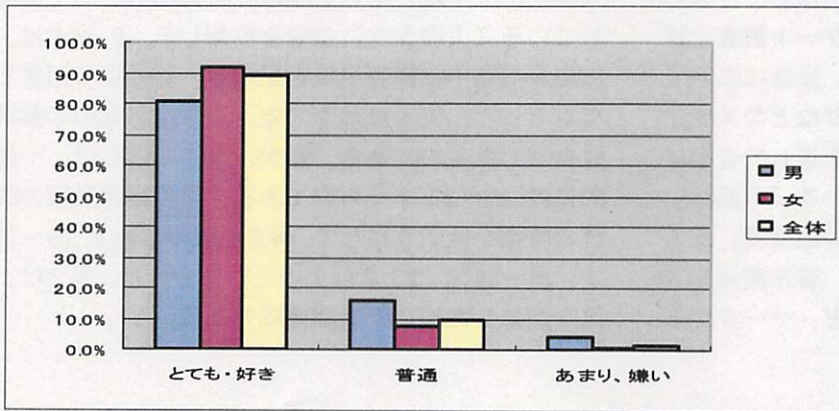
①音楽の好き嫌い

彼らの音楽活動について、①音楽の好き嫌い、②歌うこと、聴くこと、楽器を弾くこと、のうち何が好きか、の2項目によって調べた。以下はそれぞれの項目に関する調査結果である。

表 3 は、「とても好き・好き」、「普通」、「あまり好きではない・嫌い」の3つの結果である。

IV. 調査結果

表 3. 音楽の好き嫌い



結果から分かったことは、音楽の好きな学生は、男子 62 名 (80.5%)、女子 216 名 (91.9%) だった。全体の 89.0% の学生は音楽が好きであり、特に女子はほぼ 92.0% が好きと答えている。嫌いという学生もあり、男子の 4.0% 程はあまり好きではない様子

が見られた。次に、彼らに「好きな理由」と「嫌いな理由」を自由に記述してもらった。表 4 は、音楽の好きな理由、表 5 は、音楽の嫌いな理由を書いてもらった。

表 4. 好きな理由

好きな理由		男	女
技術面	聴くこと・弾くことが好き	20	48
	歌うことが好き	6	25
	歌詞が好き	1	3
	いろいろな表現ができる	3	1
	リズムが心地よい	1	1
	ピアノを弾くことが好き	1	11
精神面	気分転換	3	5
	新鮮な気持ちになる	1	1
	感動する	1	
	癒される	1	9
	気持ちが明るくなる		6
	音楽の話ができる	1	
	自分を振り返ることができる		2
	車を運転しながら聞ける		1
	生活の一部となっている	3	6
その他	5		

表 5. 嫌いな理由

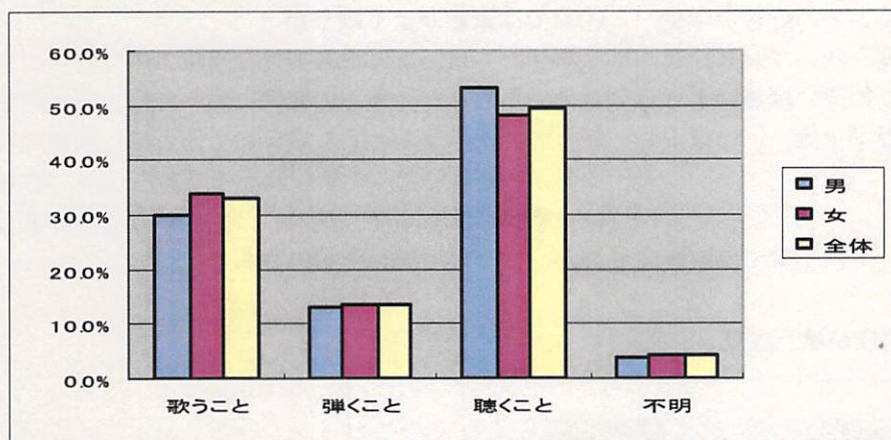
嫌いな理由	男	女
理論の学習が厭だから		1
歌うことが苦手だから		1
リズム感が悪いから		1
ピアノが弾けないから	4	3
難しいから	1	1
その他	6	4

好きな理由としては、「聴くこと・弾くことが好き」が全体で 68 名 (24.3%) あり、彼らは歌うことよりも、聴くことの方が好きのようである。また、「嫌いな理由」として「ピアノが弾けないから」が 7 名 (21.9%) いた。音楽の好き・嫌いは、楽器の演奏ができるか否かによって、左右されていることがわかった。音楽は、精神面において、彼らに勇気を与えている様子がみられた。

②歌うこと、聴くこと、楽器を弾くこと、のうち何が好きか

表 6 は、歌うこと、聴くこと、楽器を弾くこと、のうち何が好きか、について尋ねたものである。

表 6. 歌うこと、楽器を弾くこと、聴くこと、のいずれかが好きか



3つの問いに対して「聴くことが好き」と答えた学生は154名(49.4%)あり、全体の1/2は自分で何かをするよりは、音楽を聴くことを好んでいることがわかった。特にその傾向は、男子に多く見られた(53.2%)。次に「歌うことが好き」を選んだ103名(33.0%)の学生と「聴くことが好き」と答えた154名の学生に、どんなジャンルの音楽が好きか、下記の中から選んでもらった。表7は彼らの歌いたい歌、表8は聴きたい音楽のジャンルをそれぞれに○印をつけてもらったものである。

表9は、「弾くことが好き」と答えた42名の学生に、どんな楽器を弾くのが好きか、尋ねたものである。好きな楽器を書いてもらい、種類ごとに分類したものである。()の中の数字は、男子の数である。「歌いたい歌」、「聴きたい音楽」とともにポップスが多く、メロディーが軽快で、気軽に口ずさめるような曲を好んでいることがわかった。一方、「聴きたい音楽」としては、落ち着いて聴けるクラシック音楽を好んでいる男子が6名いた。

表 7. 歌いたい歌 103名 (複数回答)

歌いたい歌	男	女	計	%
ポップス	19	64	83	(78.3)
アニメソング	4	9	13	(12.3)
小学唱歌・童謡	1	14	15	(14.2)
映画音楽	2	11	13	(12.3)
クラシック	1	1	2	(1.9)
演歌	0	1	1	(0.9)
その他	4	5	9	(8.5)

表 8. 聴きたい音楽 154名 (複数回答)

聴きたい歌	男	女	計	%
ポップス	28	106	134	(87.0)
アニメソング	8	10	18	(11.7)
小学唱歌・童謡	1	5	6	(3.9)
映画音楽	2	15	17	(11.0)
クラシック	6	5	11	(7.1)
演歌	0	1	1	(0.6)
その他	6	8	14	(9.1)

表 9. 弾くことの好きな楽器 42名 (複数回答)

楽器の種類		男	女	計	%
有鍵盤楽器	ピアノ (3)、電子オルガン (1)	4	29	33	78.6
吹奏楽器	サクソフォーン (1)、トランペット、フルート、クラリネット、オカリナ	1	12	13	31.0
打楽器	ドラム (3)	3	2	5	11.9
弦楽器	ベース(3)、ギター(2)	5	5	10	23.8

有鍵楽器を「弾くことが好き」と答えた学生は、8割弱あり、そのうち＜ピアノを弾くことが好き＞という学生は28名(66.7%)あり、ピアノが一番に好まれている楽器であることがわかった。吹奏楽器の中ではサクソフォーンを吹くことの好きな学生が多い。女子でも大きな金管楽器を吹いており、この調査から楽器の好みによる男女の違いは無いようである。そして弾くことの好きな学生は、一つ以上の楽器が弾けることもわかった。

2. 家庭の音楽環境

彼らの家庭での音楽環境について、①家では家族

がよく歌うか、②どんな歌を歌うのか、③子どもの頃歌った好きな歌、の3項目によって調べた。以下、それぞれの項目に関する調査結果である。

①家では家族がよく歌うか

学生たちは、どんな音楽的な環境の中で育ってきたのであろうか。彼らの家庭においては、誰が歌を歌うのであろうか。もし歌うのであれば、家族の中の誰が、そしてどんな歌を歌うのであろうか。表10は、家族が歌う頻度、表11. は家族のうち誰が歌うのか、について尋ねたものである。

表 10. 家族が歌う頻度

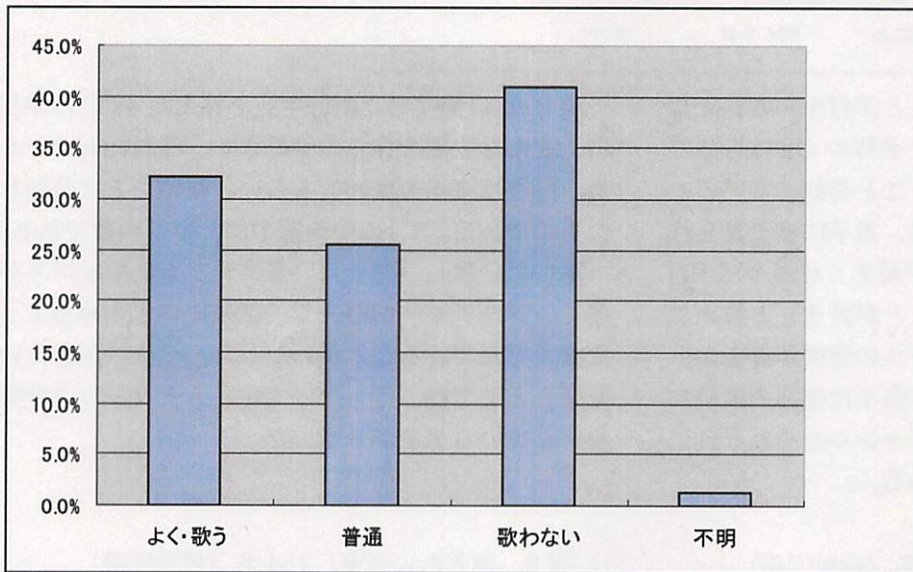


表 11. 誰が歌うのか

歌う人	祖父・祖母	父	母	兄弟	姉妹
人数	12	38	55	52	71

調査の結果、家族の中で「よく歌う、普通」と答えた学生は57%以上、「あまり歌わない・歌わない」は4割程度あった。学生の半数以上の家庭では、日常生活の中で歌が歌われているようである。

表11からは、家庭において歌うのは母が一番多く(24.1%)、次いで兄弟姉妹別に見ると妹(19.3%)、弟(15.8%)であることがわかった。

②どんな歌を歌うのか

次に家族はどんな歌を歌うのか、について書いてもらった。曲名を知らなくて、＜父母の若い頃の歌＞とか＜昔の流行歌＞とか書いた学生もあった。

表 12 どんな歌を歌うのか

表	種類	人数
1	ポップス	47
2	父母の若い頃の歌	15
3	映画、ドラマ、CM	12
4	歌謡曲、演歌	10
5	童謡、小学唱歌、フォークソング	8
6	今のはやりの歌	8
7	アニメソング	6
8	好きな曲や好きな歌手が歌う歌	12
9	詩吟・小唄・民謡・地歌、子守歌	5
10	鼻歌	4
11	テレビから流れる歌にあわせて歌	6
12	その他、不明	11

家庭では、両親、兄弟をともにポップスを歌っていると、47名の学生が回答していた。映画やドラマの中のメロディー、CMソングなど、視覚を通して耳にした音楽が覚えやすいのか、口ずさんでいることがわかった。家庭においては、童謡や小学唱歌などあまり歌われていないようである。

③子どもの頃歌った好きな歌

表13は、学生たちが子どもの頃歌った歌のうち、好きだった曲について書いてもらった。男子は57名、女子は145名の学生が回答してくれた。歌のタイトルは、393種類あった。彼らの記述は次のようである。

表13. 子どもの頃歌った好きな歌

	男	人数	女	人数
学 校 外 の 歌			セーラームーン	25
	アンパンマンマーチ	6	アンパンマンマーチ	14
	はじめてのチュウ	2	人聞ていいな	5
	勇気100%	2	勇気100%	2
	ドラエもん	1	ドラエもん	3
	ちびまる子ちゃんの歌	1	ちびまる子ちゃんの歌	1
	となりのトトロ	1	となりのトトロ	3
	カントリーロード	3	カントリーロード	1
	北風小僧の寒太郎	3	君をのせて	3
	小さな恋の歌	2	SPEED	3
	SMAP	2	モー娘	2
			ポケットモンスター	2
			ディズニー	2
幼・学 校 の 唱 歌	BELIEVE	5	BELIEVE	5
	思い出のアルバム	3	思い出のアルバム	10
	翼をください	3	翼をください	3
	さんぽ	2	さんぽ	8
	うれしいひな祭り	1	うれしいひな祭り	2
	大きな古時計	2	大きな古時計	3
	虫歯のうた	3	虫歯のうた	3
	旅立ちの日	3	旅立ちの日	4
	どんぐりころころ	1	どんぐりころころ	4
	とんぼのめがめ	1	とんぼのめがめ	1
	夕焼けこやけ	1	チューリップ	4
	エーデルワイス	1	森のくまさん	3
			さっちゃん	3
			とんでいったバナナ	3
			シャボン玉	3
君が代	2	あわてんぼうのサンタクロース	3	
		大きな栗の木の下で	3	
他			161	
計		101		292

3. 音楽活動

彼らの音楽活動について、①小・中・高時代の部活動、②学校外での音楽学習、③現在している音楽活動の3項目によって調べた。以下はそれぞれの項目に関する調査結果である。

① 小・中・高時代の部活動

表 14 で示されているように、男女合わせて 4 割強 (137 名) が小・中・高時代の部活で音楽活動に参加していたが、参加しなかった者は半数以上であった。

参加者を男女別で見ると、男子 24 名 (31.0%)、女子 113 名 (48.1%)、女子のほうが男子より多かった。参加者の記述による音楽活動の種類を見ると、男女とも楽器の演奏を挙げている。その他、<合唱

> (男子 8.0%、女子 11.5%) や<ダンス> (男子 0.0%、女子 0.8%) のような音楽活動を挙げる人もいた。また複数の音楽活動に関わったり、多数の種類 of 楽器を演奏したりする人もいた。彼らが演奏した楽器の種類を男女別にまとめたものが表 15 である。

表 14. 小・中・高時代の部活で音楽活動の有無

音楽活動	男 (%)	女 (%)	計 (%)
参加	24 (31.2)	113 (48.1)	137 (43.9)
未参加	53 (68.8)	119 (50.6)	172 (55.1)
無回答	0 (0.0)	3 (1.3)	3 (1.0)
計	77 (100.0)	235 (100.0)	312 (100.0)

表 15. 小・中・高時代の部活で演奏した楽器の種類 (複数回答)

楽器のジャンル	楽器の種類	男 (人数)	女 (人数)	計 (%)
有鍵盤楽器	ピアノ	1	6	13名 (9.3)
	アコーディオン	1	3	
	鍵盤ハーモニカ		1	
	キーボード		1	
吹奏楽器	トランペット	5	26	88名 (62.8)
	トロンボーン	2	4	
	サクソフーン	1	5	
	ホルネット		2	
	チューバ		4	
	アルトホルン		8	
	クラリネット		11	
	リコーダー		4	
	フルート		8	
	ユーフォニウム		4	
	オーボエ		2	
	その他	1	1	
	打楽器	ドラム	1	
太鼓			11	
木琴			2	
パーカッション		1	2	
タンブリン			1	
打楽器全般			4	
弦楽器	ベース	2		14名 (10.0)
	ギター	5	5	
	その他	2	2	
	バンド活動	2		2名 (1.4)
計		24	116	140名 (99.9)

表 15 から分かるように、参加者のうち 6 割以上が小・中・高時代の部活動ですでに<吹奏楽器の演奏>など本格的で豊かな音楽活動をしていた。

② 校外での音楽学習

表 16 は、学校外での音楽学習の状況を示したも

のである。平均 6 割の学生は学校の音楽の授業以外に、音楽学習をしている。経験者を男女別で見ると、男子は 23 名 (29.9%)、女子は 165 名 (70.2%) である。女子のほうが男子よりはるかに多くの学習体験をしている。表 17 は、経験者が記述した音楽学習の種類である。

表 16. 学校外での音楽学習の有無

音楽学習	男 (%)	女 (%)	計 (%)
参加	23 (29.9)	165 (70.2)	188 (60.3)
未参加	51 (66.2)	66 (28.1)	117 (37.5)
無回答	3 (3.9)	4 (1.7)	7 (2.2)
計	77 (100.0)	235 (100.0)	312 (100.0)

表 17. 学校の音楽の時間以外の音楽学習 (複数回答)

音楽学習の種類	項目	男 (人数)	女 (人数)	計 (%)
楽 器	ピアノ	11	142	187名 (83.1)
	琴		3	
	太鼓・三味線・横笛	1	4	
	オルガン	1	1	
	ギター	1		
	リコーダー	1		
	ベース	1		
	電子オルガン	1	11	
	カスタネット		1	
	クラリネット		1	
	ホルン		2	
	ドラム		1	
	キーボード		1	
	フルート		1	
	その他の楽器	1	1	
動き・歌	ダンス	2	16	37名 (16.4)
	クラシックバレエ		2	
	リズム	1	2	
	よさこい鳴子踊り	1		
	リトミック		3	
	声楽・合唱	1	9	
その他	バンド		1	1名 (0.4)
計		23	202	225 (99.9)

表 17 から分かるように、学校以外で音楽を学習していた者の多くは、いずれかの楽器を習っていた。その中には複数の楽器を習った人も何人かいた。

③ 現在している音楽活動

表 18 は、彼らが現在行っている音楽活動の状況を示すものである。平均約 2 割の学生が現在も音楽活動をしている。参加者を男女別でみると、男子は 21 名 (27.3%)、女子は 45 名 (19.1%) である。

参加者が現在行っている音楽活動の種類は表 19 のとおりである。

表 18. 現在している音楽活動の有無

音楽活動	男 (%)	女 (%)	計 (%)
参加	21 (27.3)	45 (19.1)	66 (21.2)
未参加	56 (72.7)	187 (79.6)	243 (77.9)
無回答	0 (0.0)	3 (1.3)	3 (0.9)
計	77 (100.0)	35 (100.0)	312 (100.0)

表 19. 現在している音楽活動の種類（複数回答）

音楽活動の種類	項目	男(名)	女(名)	計(%)
楽器の演奏	ピアノ	1	14	24名(40.0)
	太鼓	2		
	電子オルガン		1	
	ギター	1		
	クラリネット		1	
	ハンドベル		2	
	オカリナ		2	
歌・舞踊	合唱	1	1	9名(15.0)
	よさこい鳴子踊り	2		
	ダンス		5	
その他	バンド活動	11	9	27名(45.0)
	路上ライブ	1		
	演奏会	2	4	
計		21	39	60名(100.0)

表 19 から分かるように、彼らが現在参加している音楽活動は<楽器の演奏>が9割以上を占めている。男女とも<バンド活動>を積極的に行っている。

携帯・iPodで音楽を聴く頻度を2項目に分けて調べた。以下はそれぞれの項目に関する調査結果である。

4. 音楽産業・メディアとの関わり

音楽産業・メディアとの関わりについて、①カラオケ、ライブ、コンサートに行く頻度、②TV、CD、

① カラオケ、ライブ、コンサートに行く頻度

表 20 は、彼らが<カラオケ><ライブ><コンサート>に行く頻度を示すものである。表 20 Aは男子、表 20 Bは女子の頻度を示したものである。

表 20A. カラオケ、ライブ、コンサートに行く頻度（男）

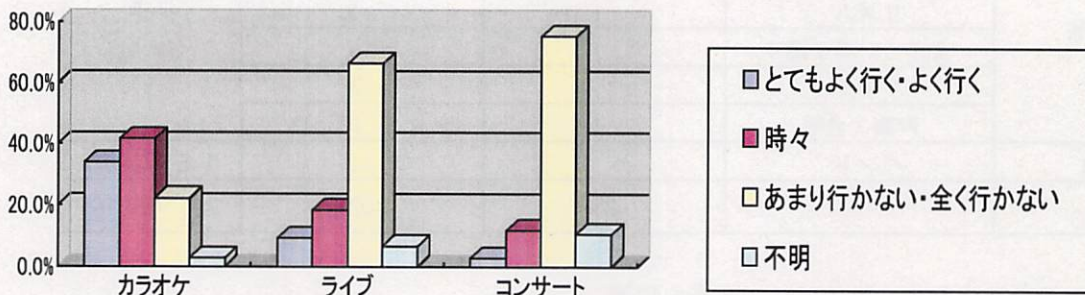
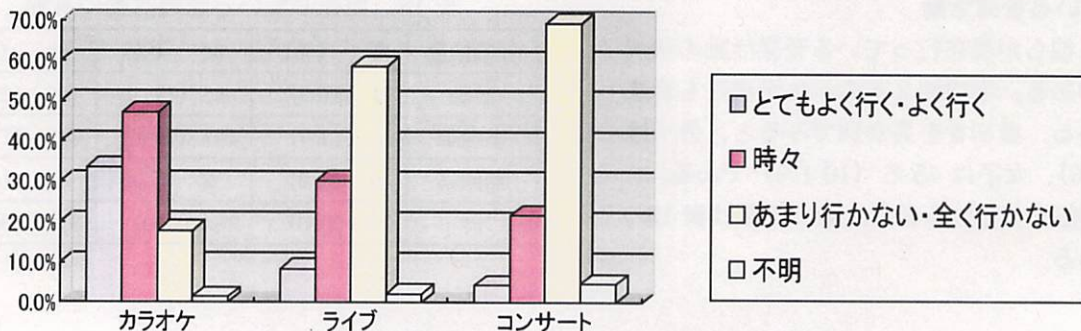


表 20B. カラオケ、ライブ、コンサートに行く頻度（女）



カラオケの場合、「とてもよく行く・よく行く」と答えた男子は26名(33.8%)、女子は79名(33.6%)、「あまり行かない・全く行かない」は、男子17名(22.1%)、女子42名(17.9%)である。カラオケに「行く」のは男女とも7割以上である。

ライブの場合、「とてもよく行く・よく行く」は、男子7名(9.1%)、女子20名(8.5%)で、「あまり行かない・全く行かない」は、男子51名(66.2%)、女子138名(58.7%)である。ライブに「行かない」のは男女とも約6割を占めている。

コンサートの場合、「とてもよく行く・よく行く」は、男子2名(2.6%)、女子10名(4.3%)で、「あ

まり行かない・全く行かない」は、男子58名(75.3%)、女子163名(69.4%)である。コンサートに「行かない」のは男女とも約7割を占め、あまり行っていないことがわかった。

以上の結果から、彼らが<カラオケ><ライブ><コンサート>に関わる頻度は、男女とも<カラオケ>にはよく行くが、<ライブ>、<コンサート>はあまり行かないという傾向が見られた。

② TV、CD、携帯・iPodの使用頻度

表21Aは彼らが「TV、CD、携帯・iPodで音楽を聴く」頻度を示すものである。表21Aは男子、21Bは女子の頻度を示したものである。

表 21A TV、CD、携帯・iPod の使用の頻度 (男)

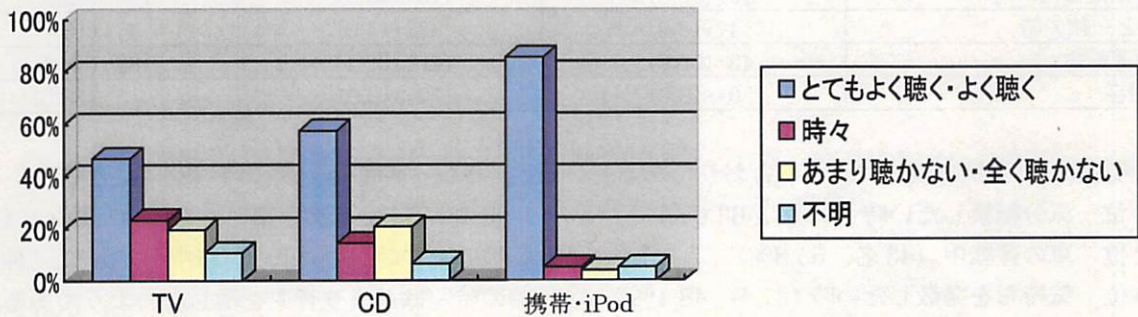
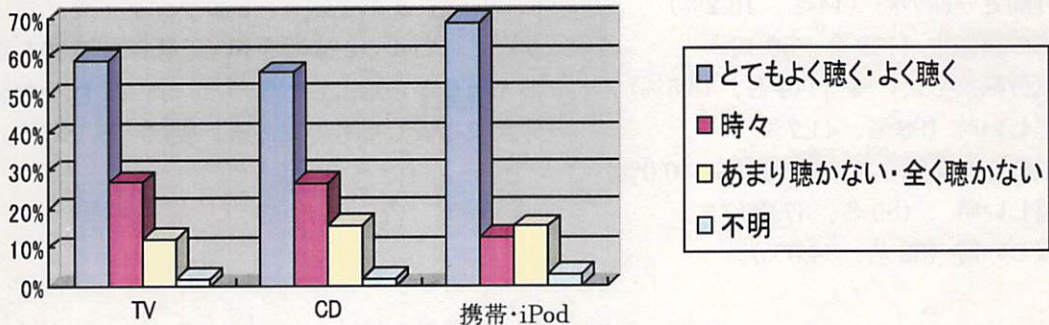


表 21B TV、CD、携帯・iPod の使用の頻度 (女)



テレビの場合、「とてもよく聴く・よく聴く」と答えた男子は36名(46.8%)、女子は139名(59.1%)で、「あまり聴かない・全く聴かない」は、男子15名(19.5%)、女子28名(11.9%)である。テレビで音楽を「聴く」のは、男子7割、女子8割を占めている。

CDの場合、「とてもよく聴く・よく聴く」は、男子45名(58.4%)、女子131名(55.7%)で、「あまり聴かない・全く聴かない」は、男子16名(20.8%)、女子37名(15.7%)である。CDで音楽を「聴く」

のは、男子7割、女子8割である。

携帯・iPodの場合、「とてもよく聴く・よく聴く」は、男子66名(85.7%)、女子162名(68.9%)、「あまり聴かない・全く聴かない」は、男子3名(3.9%)、女子36名(15.3%)である。携帯・iPodで音楽を「聴く」のは、男子9割、女子8割を占めている。

以上の結果から、彼らが<テレビ>、<CD>、<携帯・iPod>で音楽を聴く頻度は、男女とも高い傾向が見られた。テレビを見たり、CDを聴いたりするのは、女子のほうが多く、携帯・iPodの場合は男子のほうが

より高い傾向が見られた。

5 音楽と心情

音楽と心情について、①音楽と接したいと思った時、②その時どんな種類の音楽を好むかの2項目で調べた。以下、それぞれの項目に関する調査結果である。

① 音楽と接したいと思った時

「どんな時に音楽と接したいか」について、a. 悲しい時、b. 寂しい時、c. 嬉しい時、d. 気持ちを発散したい時、e. 気分転換したい時、f. 仲間と一緒にいる時、g. 車の運転中、の7項目の中から○印をつけて答えてもらった。複数回答であり、一人で3つ選んだ人もあった。表22は、その結果を示すものである。

表 22. 音楽と接したいと思った時 (複数回答)

音楽と接したい時	男 (%)	女 (%)	計 (%)
a. 悲しい時	29 (37.7)	98 (41.7)	127 (40.7)
b. 寂しい時	31 (40.3)	82 (34.9)	113 (36.2)
c. 嬉しい時	30 (39.0)	89 (37.9)	119 (38.1)
d. 気持ちを発散したい時	37 (48.1)	94 (40.0)	131 (42.0)
e. 気分転換したい時	49 (63.6)	114 (48.5)	163 (52.2)
f. 仲間と一緒にいる時	14 (18.2)	33 (14.0)	47 (15.1)
g. 車の運転中	43 (55.8)	139 (59.1)	182 (58.3)
無回答	0 (0.0)	77 (3.0)	7 (58.3)

男女が選択した項目の順位は以下のとおりである。

- 男子：1位 気分転換したい時 (49名、63.6%)
 2位 車の運転中 (43名、55.8%)
 3位 気持ちを発散したい時 (37名、48.1%)
 4位 寂しい時 (31名、40.3%)
 5位 嬉しい時 (30名、39.0%)
 6位 悲しい時 (29名、37.7%)
 7位 仲間と一緒にいる時 (14名、18.2%)
- 女子：1位 車の運転中 (139名、59.1%)
 2位 気分転換したい時 (114名、48.5%)
 3位 悲しい時 (98名、41.7%)
 4位 気持ちを発散したい時 (94名、40.0%)
 5位 嬉しい時 (89名、37.9%)
 6位 寂しい時 (82名、34.9%)

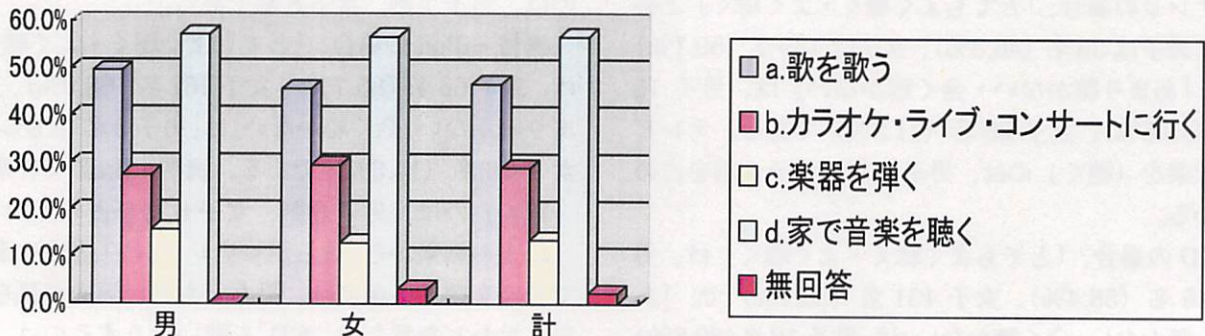
7位 仲間と一緒にいる時 (33名、14.0%)

以上のように、音楽と接したい時は、男女とも“気分転換したい時”や“車の運転中”であり、“仲間と一緒にいる時”はあまり音楽を欲しないようである。

② その時どんな種類の音楽を好むか

音楽と接したい時「どんな種類の音楽を好むか」について、a. 歌を歌う、b. カラオケ・ライブ・コンサートに行く、c. 楽器を弾く、d. 家で音楽を聴く、の4項目から選んでもらった。表23はその結果を男女で比較したものである。複数回答である。

表 23. その時どんな種類の音楽を好むか



男女が選択した項目の順位は以下のとおりである。

男子：1位 家で音楽を聴く（44名、57.1%）

2位 歌を歌う（38名、49.4%）

3位 カラオケ・ライブ・コンサートに行く
（21名、27.3%）

4位 楽器を弾く（12名、15.6%）

女子：1位 家で音楽を聴く（133名、56.6%）

2位 歌を歌う（107名、45.5%）

3位 カラオケ・ライブ・コンサートに行く
（69名、29.4%）

4位 楽器を弾く（30名、12.8%）

以上の結果から、気分転換をしたい時は、男女とも家で音楽を聴いて、心の安定を図っているようである。

V. まとめ

以上、保育系大学生312名を中心に、1. 音楽の趣味、2. 家庭の音楽環境、3. 音楽活動、4. 音楽産業・メディアとの関わり、5. 音楽と心情、の5つの内容について調査を試みた。彼らのアンケートを分析することにより、次のような結果を得ることができた。

- ① 全体の89%は音楽が好きである。しかし男子の4%は音楽が嫌いという。
- ② 好きな理由は、「聴くこと・歌うこと」が好きという人が24%あった。嫌いな理由としてピアノが弾けないからというのが、7名（21%）あった。
- ③ 音楽のうち「聴くことが好き」が最も多く、全体で154名（49%）あり、特に男子に多い。
- ④ 歌いたい歌、聴きたい歌ともにポップスが多い。
- ⑤ 弾くことの好きな楽器はピアノが多い。楽器の好みに対する男女の違いは見られなかった。
- ⑥ 家庭において歌う頻度は、よく歌う・歌うという家庭は57%、全く歌わないは、40%あった。家族の中で歌うのは 母、妹、弟である。
- ⑦ 家族が歌う歌の種類は、ポップス、父母の若いころの歌など、口ずさめるような曲が多い。
- ⑧ 子どもの頃好きだった歌は、男子はアンパンマンマーチ、女子はセーラームーンであり、彼らの好みは多種にわたっている。
- ⑨ 小・中・高の音楽系部活参加者は、男子31%、

女子48%。そのうち9割が楽器の演奏である。

- ⑩ 楽器の中でも、吹奏楽器のトランペットを経験した学生が多かった。
- ⑪ 学校外の音楽学習経験は、男子29%、女子70%している。そのうち、ピアノ学習の体験が多く体験者の81%に相当する。
- ⑫ 現在、学校外で音楽活動をしているのは、男子は27%、女子は19%であり、男子はバンド活動、女子はピアノが多い。
- ⑬ カラオケは、男女ともにかかり行っており、全体の7割の学生が参加している。
- ⑭ ライブに行く学生は少なく4割程度であるが、コンサートに行く学生は3割程度で少ない。
- ⑮ テレビで音楽番組を視聴する学生は、男子47%、女子59%、CDを聴く学生は、男子58%、女子56%である。
- ⑯ 携帯・iPodを聴く学生は、男子86%、女子69%を占めている。

以上のようなことが調査結果から明らかになった。この結果から見えてくるのは、彼らの音楽歴は、日本における音楽教育、産業・メディアの発達、人々の好みの変遷などをそっくり映し出している鏡のように思われる。学校教育においては、1947年（昭和22年）に出された「学習指導要領 音楽編」では、音楽教育の目標の一つに、「音楽における表現力を養うこと（歌うこと、弾くこと）」という項目が加えられ、始めて弾くこと、つまり楽器の演奏が示された。その後、1956年には全日本吹奏楽コンクールの中・高・大・一般の部門が再開され、そのコンクールを目指して吹奏楽器が盛んになった。今回対象とする学生は、その影響をかなり受けているように思われる。

産業と教育の結びつきという観点からみれば、ピアノ学習をあげることができる。1950年代に始まった民間の音楽教室の開催は、1976年にはアップライトピアノが30万台を超える勢いで増産される程に女子のピアノ教育に拍車をかけた。その影響は、今回のピアノ学習調査の中にも見られた。また、21世紀になって、携帯型デジタル音楽プレイヤー、携帯電話での「着うた」など、全体で228人（73%）の人が「よく聴く」と答える程に、若者の間で爆発的な人気を博した。携帯型デジタル音楽プレイヤー、

携帯電話での「着うた」は、簡単にダウンロードでき、携帯することによって何種類の音楽を自由に、いつでも聴くことができる楽しさ、それに加えて、＜友人同士の共通話題が提供できる素材＞として、欠かすことのできないものである、と答えた人があるように、若者たちの間に浸透している実態が、今回の調査からも明らかになった。

人々の音楽の好みも、時代の音楽の変遷と大きな関わりがある。1950年代の「名曲喫茶」「ジャズ喫茶」に始まり、60年代に起こった「演歌」と「ポップス」の台頭、60-70年代のフォークソング、70年代に誕生したカラオケそしてカラオケボックスなどは、今までの“聴く音楽”から、“自から演ずる音楽”に移っていった。また、80年代の自作自演の＜シンガーソングライター＞の流行、80年代末の派手な髪型で視覚的要素を強調した＜ロック・バンド＞の登場、そして特に最近、何の気負いもなく路上ライブを楽しむ若者たちの出現により、音楽が特定の訓練された人によって演じられるのではなく、誰でもできる身近なものとして、音楽ファンの裾野を広げた。また、最近の傾向として、平成14年の中学校の学習指導要領の中に和楽器の学習が義務づけられたことにより、小学校でも尺八、箏を取り入れた一日体験学習の授業が試みられるようになった。その影響は、学校教育のみならず一般社会の音楽学習にも浸透しつつある。

現代は、教育、産業、メディア、社会的環境が互いに衝突し、絡み合い、多種にわたる音楽が生み出され、その中で、小学唱歌・童謡の好きな人、演歌の好きな人、クラシック音楽の好きな人、邦楽の好きな人、そして現代の若者のようにデジタル機器を自由に操り、ゲーム感覚で音楽を楽しむ人、など与えられた環境、興味による音楽の選択肢が広がった

時代ではなかろうか。

今回の調査で明らかになったように、若者は音楽を「聴くことが好き」である。しかし聴く環境と条件は、コンサートホールに足を運んで、その雰囲気の中で聴く、という従来の鑑賞の仕方とは異なり、“聴きたい時”に“聴きたい場所”で“聴きたい曲”を楽しんでいるのである。彼らも、音楽を身近な存在として受け止め、＜気分転換＞＜勇気づけ＞という精神的な安定とくやる気＞に結び付けている。楽しみ方は、一人一人異なるが、音楽が彼らの生活に大きく関わり、日々の生活に潤いを与えている、という実態がこの調査から明らかになった。今回の調査は、わずか300名ほどの学生のデータであるが、保育系学生の音楽観の一端を垣間見ることができた。さらにこの調査を、一般の大学生にも試み、保育系学生との違いを比較してみたいと考えている。

謝辞

本研究には名古屋産業環境経営研究所より助成金を得たことを、ここに記して謝意を表します。

今回この調査に協力いただきました保育科を備えた大学の先生方、学生の皆さん、そして集計作業に根気よくお付き合い下さった名古屋産業大学環境経営研究所の加藤久美子さん、名古屋経営短期大学子ども学科3年生の加藤那奈さんに心からのお礼を申し上げます。

参考文献

- ・「現代日本社会における音楽」 月溪恒子編 放送大学教材 2008年
- ・「とも育ち保育入門」名古屋経営短期大学 子育て環境支援研究センター編 2008年
- ・文部省学習指導要領

別表1. <音楽に関する意識調査>

() 大学 () 年生

<音楽に関する意識調査>

(下にあるものからあてはまるものを一つだけ選び○を付けてください)

1. 音楽は好きですか。

a.とても好き b.好き c.普通 d.あまり好きではない e.嫌い

その理由をかいてください。

()

2. 歌を歌うこと(聴くこと)と楽器を弾くこと(聴くこと)のどちらが好きですか。

a. 歌を歌うこと(聴くこと) b. 楽器を弾く(聴くこと)

歌を歌うこと(聴くこと)と答えた人は、次のうちどんな歌が好きですか。

①ポップス ②アニメソング ③わらべ歌 ④小学唱歌 ⑤童謡 ⑥演歌 ⑦その他

楽器を弾く(聴くこと)と答えた人は、どんな楽器が好きですか。

()

3. 家では、父母兄弟がよく歌いますか。

a.とてもよく歌う b.よく歌う c.普通 d.あまり歌わない e.全く歌わない

a.b.c.と答えた人:

歌うのは誰ですか。()

どんな歌をうたいますか。()

4. 子どものころ歌った歌で好きだった曲のタイトルを覚えているだけ書いてください。

5. 学校の音楽の時間以外、どこかで音楽のレッスンを受けたことはありますか。

a. はい:

どんな楽器でしたか()

b. いいえ

6. 現在音楽活動をしていますか。

a. はい:

どんな活動ですか()

b. いいえ

7. カラオケ、ライブ、コンサートには行きますか。

- a. カラオケ 平均すると1ヶ月に () 回くらい
- b. ライブ 平均すると1ヶ月に () 回くらい
- c. コンサート 平均すると1ヶ月に () 回くらい

8. TV、CD、携帯・iPodで音楽を聴きますか。

- a. TV 平均すると1週間に () 回くらい
- b. CD 平均すると1週間に () 回くらい
- c. 携帯・iPod 平均すると1週間に () 回くらい

9. 日常生活において歌をよく歌いますか。

- a. とてもよく歌う b. よく歌う c. 普通 d. あまり歌わない e. 全く歌わない

10. どんな時に音楽と接したいと思いますか。

- a. 悲しい時 b. さみしい時 c. 嬉しい時 d. 気持ちを発散したい時
- e. 気分転換したい時

その時どんな音楽を好みますか。()

ありがとうございました。